

お茶になる草木

たくさんのお花が咲きほころぶ季節になりました。野の草木をもっと身近に感じてみませんか。春から初夏に採集できる野草や樹木を紹介します。 布施静香（自然・環境評価研究部）



←カラスノエンドウ（烏野豌豆）
マメ科 ソラマメ属
道端などに自生する。
4月から7月に開花。
果実は黒く熟し、晴れた日に弾け飛ぶ。托葉に花外蜜腺がある。
お茶にする部分：葉・莖
作り方：水洗いして日干しする。



←ツクシ（土筆）
トクサ科 トクサ属
山野に自生する。
スギナの胞子茎（胞子をつくる器官）がツクシ。はかまと呼ばれる部分は葉。
お茶にする部分：地上部
作り方：水洗いして日干しする。

カキドオシ（垣通し）→
シソ科 カキドオシ属
山野や路傍に自生する。
4月から5月に開花。
開花後に1mにもなるつるを伸ばす。
お茶にする部分：葉・莖
作り方：水洗いして陰干しする。



ドクダミ（毒矯み・毒溜め）→
ドクダミ科 ドクダミ属
山野の日陰に自生する。
5月から7月に開花。
白色の総苞（そうほう：花びらに見える部分）の中央に淡黄色の小花をたくさんつける。
お茶にする部分：全草
作り方：水洗いして陰干しする。



←フジ（藤）
マメ科 フジ属
山野に自生する。
4月から5月に開花。つる性。
お茶にする部分：花
作り方：開花直後の花を陰干しする。



←オオバコ（大葉子）
オオバコ科 オオバコ属
日本全土に自生する。
春から夏に開花。
種子の表面は水気にあうと粘り、くっついて分布域を広める。
お茶にする部分：葉
作り方：水洗いして陰干しする。



カキノキ（柿の木）→
カキノキ科 カキノキ属
古くに中国揚子江沿岸から渡来。
6月頃に開花。
お茶にする部分：若葉
作り方：水洗いして陰干しする。



←ビワ（枇杷）
バラ科 ビワ属
中国南西部原産。
11月から12月に開花。
葉は大型で、裏面には茶色の毛が密生する。
お茶にする部分：葉
作り方：水洗いして陰干しする。

ヤエザクラ（八重桜）→
バラ科 サクラ属
八重咲きのサクラは、公園や土手など日本各地で栽培される。
4月中旬から開花。
お茶にする部分：花
作り方：開花直後の花を陰干しする。



←ヨモギ（蓬）
キク科 ヨモギ属
山野や路傍に自生する。
夏から秋に開花。
葉の裏は白い毛でおおわれる。葉をもむと良い香りがする。
お茶にする部分：花がつく前の葉莖
作り方：水洗いして陰干しする。



写真撮影：高橋晃・福田知子・布施静香・山本伸子

- <作り方>
- ① 山野で採集する（花は、つぼみ～開花直後のものを選んで採集する）② 水洗いし、土などを落とす（花は洗わない）
 - ③ 干す ④ 使いやすい大きさに刻む ⑤ カラスノエンドウは土鍋で焦がさないように煎る
 - ⑥ 熱湯を注ぐか、煮出す



兵庫県立 人と自然の博物館
hitohaku news paper

人との応援情報誌 11-68号 21頁 2-038A3

ひとほく新聞

TEL:079-559-2001（ひとほくの代表番号です）
TEL:079-559-2002（学校や団体のご利用の方はこちらにおかけください）
TEL:079-559-2003（セミナーやイベントなどのお問い合わせ先です）



〒669-1546
兵庫県三田市弥生が丘6丁目
兵庫県立人と自然の博物館
(兵庫県立大学 自然・環境科学研究所)
http://hitohaku.jp

山陰海岸ジオパークへ行こう

皆さんはジオパークという言葉をご存知ですか？ジオ(=Geo)というのは、大地・地球・土地などに関係することばの接頭語なので、“大地の公園”というような意味になります。ジオパークの活動は、ユネスコの支援により2004年に設立された世界ジオパークネットワークによって推進され、現在64箇所の地域が世界ジオパークに認定されていますが、各地域は4年ごとに審査され、除名されることもあります。日本では島原半島、糸魚川、洞爺湖・有珠山の3か所が2009年に世界ジオパークに認定され、現在は山陰海岸ジオパークが2010年度世界ジオパーク認定を目指して申請しています。

山陰海岸ジオパークの主テーマは、「日本海形成にともなう多様な地形・地質・風土と人々の暮らし」です。日本はかつて大陸の一部でしたが、およそ2500万年前ごろから分かればじめ、現在のような日本海と日本列島となりました。山陰海岸には、その過程で作られた多くの地質が残されています。多様な地質は雄大な砂丘や砂浜、荒波による海食崖や海食洞、内陸の滝や渓谷など、多様な景観をつくり出しています。またそこにはハマゴウなどの海浜植物、沿岸部のトウテイランや内陸部のブナ林など、地域特有の植生がみられます。山陰海岸の特徴の一つは、このように多様な自然景観がみられることです。

もう一つの特徴は、山陰海岸が人々の暮らしの場であり、歴史・文化がジオと関わってつくられてきたことです。たとえば玄武洞の硬い玄武岩は豊岡盆地に厚い土砂を堆積させる一因となり、そこにできた低湿地はコウノトリを育み、そこに生えるコリヤナギは柳行李の材料となって現在のカバン産業につながっています。ほかにカニやタタキなど豊かな漁場となった深い海をもたらした日本海の拡大、北前船の風待ち港となった入り組んだ地形、棚田やスキー場となった山地の地すべり地、そして断層に沿って湧き出した温泉などがあります。このように、山陰海岸ジオパークは、大地の現象が人の営みに深くかかわっていることを教えてくれる場所でもあるのです。



日本ジオパーク
● 会員地域
● 準会員地域



ジオパークが成り立つためには、(1) 強固な運営組織が存在すること、(2) 地質や地形だけではなく生物・歴史・文化・暮らしなどにかかわる複数のサイトがあり、保護されていること、(3) ガイド・ツーリズム・学習プログラムなどで活用され、地域の活性化につながっていること、が必要で、特に、ジオパークを継続的に発展させていくためには(3)をさらに充実させていくことが必要です。それを支えるのは地元で活動する人たちと、そこを訪れる多くの人たちです。ひとほくでは、山陰海岸ジオパークのことを学び、現地へ出かけるメニューを用意しています。皆さん、一緒に山陰海岸ジオパークに出かけませんか。

先山 徹(自然・環境評価研究部)



山陰海岸ジオパークの範囲とジオエリア

「春よこい」

「春よこい」といえば、「春よ来い早く来い あるきはじめたみいちゃんやんが 赤い鼻緒のジョジョはいて おんもへ出たいと待っている」という歌が思い浮かびます。

人と自然の博物館にほど近い農家で生まれ、子どもの頃(半世紀前)は、まだまだ道路は舗装されてなく、ほ場整備もされなく自然そのまま、冬は、今より寒く、小さな滝に氷柱が出来、雪もたくさん降って、道路の側の竹藪が雪の重さでトンネルを造っていました。

しかし、春の訪れが近づくと、家から飛び出し、小さなながらも麦踏みの手伝い、池や田んぼの土手を生えご飯のおかずになるツクシ採り、ヨモギ餅を作ったもらうのヨモギ採り、祖父が牛と唐鋤(まだ、耕耘機、トラクターが無かった)を使って田んぼの荒おこししている側で、土の中から出てくるカエルを捕まえる、母方の祖父に連れられてタケノコ掘り、レンゲ摘み、新芽が吹き出した裏山の光山寺、天狗岩などを友達と走り回るなど、またテレビやゲームも無かったけれど、結構毎日楽しんでいました。

今、考えて見ると、あらゆる生命が仲良く生きる「生物多様性」の体験を毎日していたのだなと、懐かし子ども頃の頃を回想しています。

春が訪れたら、是非、子どもさんたちには、野山を元気に駆け回り、たくさん自然に触れて、身近に春を感じていただきたいと思えます。

森 正明
(兵庫県立人と自然の博物館 次長)